

第9回 信州 知の連携フォーラム

2025年12月5日(金) 13:00~15:30(受付 12:30)
長野県立歴史館

主催 長野県博物館協会 長野県立歴史館
共催 信州大学附属図書館 県立長野図書館 長野県立美術館
協力 長野県ケーブルテレビ協議会

テーマ

感性を育てる試み ～学校教育との連携～

デジタル化が急速に進む一方で、子どもたちが周囲の人と直接かかわったり、実物を通して感じ・考えたりする機会が減っているように思います。今だからこそ、感性を育てる教育が必要とされているのではないでしょうか。

私たちは、美術作品や歴史遺物、絵本・図書などを通して、直に子どもたちが感じ・考える力を養う手助けができます。今回は図書館や博物館・美術館の取組から、感性を育てる教育について考えます。
教育について興味のある方は、是非ともご参加ください。

13:00	開催挨拶・趣旨説明 笹本 正治 / 長野県立歴史館特別館長
13:10	報告①「フォーラムの経緯と連携」県立長野図書館長 森 いづみ 氏 報告②「歴史館見学の成果と課題」長野県立歴史館 文化財指導主事 中山 敦
13:50	基調講演①「あさひ美術館～地域と歩んできた学校美術館～」 辰野町教育委員会 辰野美術館 学芸員 川島 周 氏
14:35	基調講演②「あづみの学校ミュージアムの取り組み」 安曇野市教育委員会 文化課 文化振興担当主査 塩原 理恵子 氏
15:20	閉会挨拶 笠原 美智子 氏 / 長野県立美術館長



基調講演①

「あさひ美術館～地域と歩んできた学校美術館～」

辰野東小学校の「あさひ美術館」は、県内でも稀有な「学校美術館」の一つです。同校が位置する「旧朝日村地区」は明治以降多くの芸術家を輩出しており、現在では作家や住民から寄贈された100点以上が校内に展示されています。

本発表では、芸術家が生まれた背景に触れながら、学校が長年にわたり地域と連携し、作品を保存しながら教育現場で活用してきたことや、これから展望などについて述べます。



辰野町教育委員会 辰野美術館 学芸員 川島 周（かわしま しゅう）

1993年辰野町生まれ。2016年学習院大学文学部哲学科卒業後、辰野町役場入庁。2018年より辰野美術館学芸員を務め、2020年よりほぼすべての同館展覧会の企画運営を手掛ける。また同年より「あさひ美術館」理事を務める。

研究分野は近代日本画。

基調講演②

「あづみの学校ミュージアムの取り組み」

安曇野市内には市立・私立を含め20館余りの美術館・博物館があり連携した取り組みを重ねてきました。そのひとつが2012年から行っている「あづみの学校ミュージアム」です。複数の館が本物の資料や作品を厳選して、学校で展示し、鑑賞する授業を行っています。多様なジャンルのミュージアムを通して、地域の歴史文化や幅広い芸術表現を一度に知れる機会として、市内の小中学生が必ず一度は経験できるよう学校を回っています。

現在は地域学習や対話型鑑賞など学校のニーズにあわせながら実施しています。



安曇野市教育委員会 文化課 文化振興担当主査 塩原理絵子（しおはらりえこ）

長野市出身。豊科近代美術館（現安曇野市美術館）学芸員を経て、現在安曇野市教育委員会 文化課 文化振興担当所属。美術、音楽等の学校へのアウトリーチ活動を担当。